



平成 21 年 10 月 27 日

各 位

会社名 株式会社 富士通ゼネラル
 代表者名 代表取締役社長 大石 悠弘
 (コード番号 6755 東証・大証・名証各市場第一部)
 問合せ先 法務部長 加納 俊男
 TEL (044) 861-7627

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 4 月 28 日の決算発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせします。

記

1. 連結業績予想の修正

1) 平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 21 年 4 月 28 日発表)	82,000	3,700	2,300	1,100
今 回 修 正 (B)	76,923	4,124	4,029	1,802
増 減 額 (B-A)	△5,077	424	1,729	702
増 減 率 (%)	△6.2	11.5	75.2	63.8
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	109,288	5,015	3,210	1,221

2) 平成 22 年 3 月期通期 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 21 年 4 月 28 日発表)	173,000	9,000	5,800	2,700
今 回 修 正 (B)	166,000	9,000	6,400	2,700
増 減 額 (B-A)	△7,000	—	600	—
増 減 率 (%)	△4.0	—	10.3	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	187,102	8,245	3,260	1,583

2. 個別業績予想の修正

1) 平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 21 年 4 月 28 日発表)	70,000	1,700	1,100	1,000
今 回 修 正 (B)	65,783	2,492	2,909	1,710
増 減 額 (B-A)	△4,217	792	1,809	710
増 減 率 (%)	△6.0	46.6	164.5	71.0
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	91,012	1,241	2,130	1,449

2) 平成22年3月期通期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成21年4月28日発表)	147,000	4,400	2,800	2,100
今回修正(B)	140,000	4,400	3,400	2,100
増減額(B-A)	△7,000	—	600	—
増減率(%)	△4.8	—	21.4	—
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	157,729	1,585	2,878	1,889

3. 修正の理由

当第2四半期累計期間の連結業績につきましては、エアコンにおいて、市況が全般に低調のまま推移したことに加え、一部地域での天候不順等により、売上高は769億2千3百万円(期初予想820億円)となりました。

営業利益は、主に国内向けエアコンにおける高単価機種の販売構成比拡大と売価維持、情報通信部門における損益改善、ならびに全社的なコストダウンと経費削減を進めたことに加え、為替相場が想定よりも好転したことから、計画を上回る41億2千4百万円(同37億円)となりました。経常利益は、為替差益の計上などにより40億2千9百万円(同23億円)となり、四半期純利益は、本年7月に公表した子会社株式会社新庄富士通ゼネラルの解散・清算に伴う事業構造改善費用6億1千9百万円を特別損失として計上したことから、18億2百万円(同11億円)となりました。

通期の連結業績予想につきましては、下半期以降、海外向けエアコンにおいて、流通在庫適正化によるスペイン向け等の出荷再開、オセアニア等での堅調な需要が期待されます。一方でロシアや東欧等では、経済回復の遅れから需要が低迷しているなど、市況が地域によりまだらな状況と予測されることから、売上高は、1,660億円(同1,730億円)となる見込みです。

損益については、引き続きエアコンの販売構成比改善と売価維持、情報通信部門における損益改善、ならびに全社的なコストダウンと経費削減を徹底してまいります。各地域の景気回復動向に加え、素材価格や為替相場の動向等、先行き不透明な状況が続いていることなどを考慮し、営業利益は期初予想を据え置くこととします。また、上半期に為替差益および特別損失を計上したこと等を反映し、経常利益は64億円(同58億円)、当期純利益は27億円(期初予想と同額)となる見込みです。

単独の第2四半期累計期間および通期業績予想の修正理由につきましては、連結と概ね同様です。

以 上